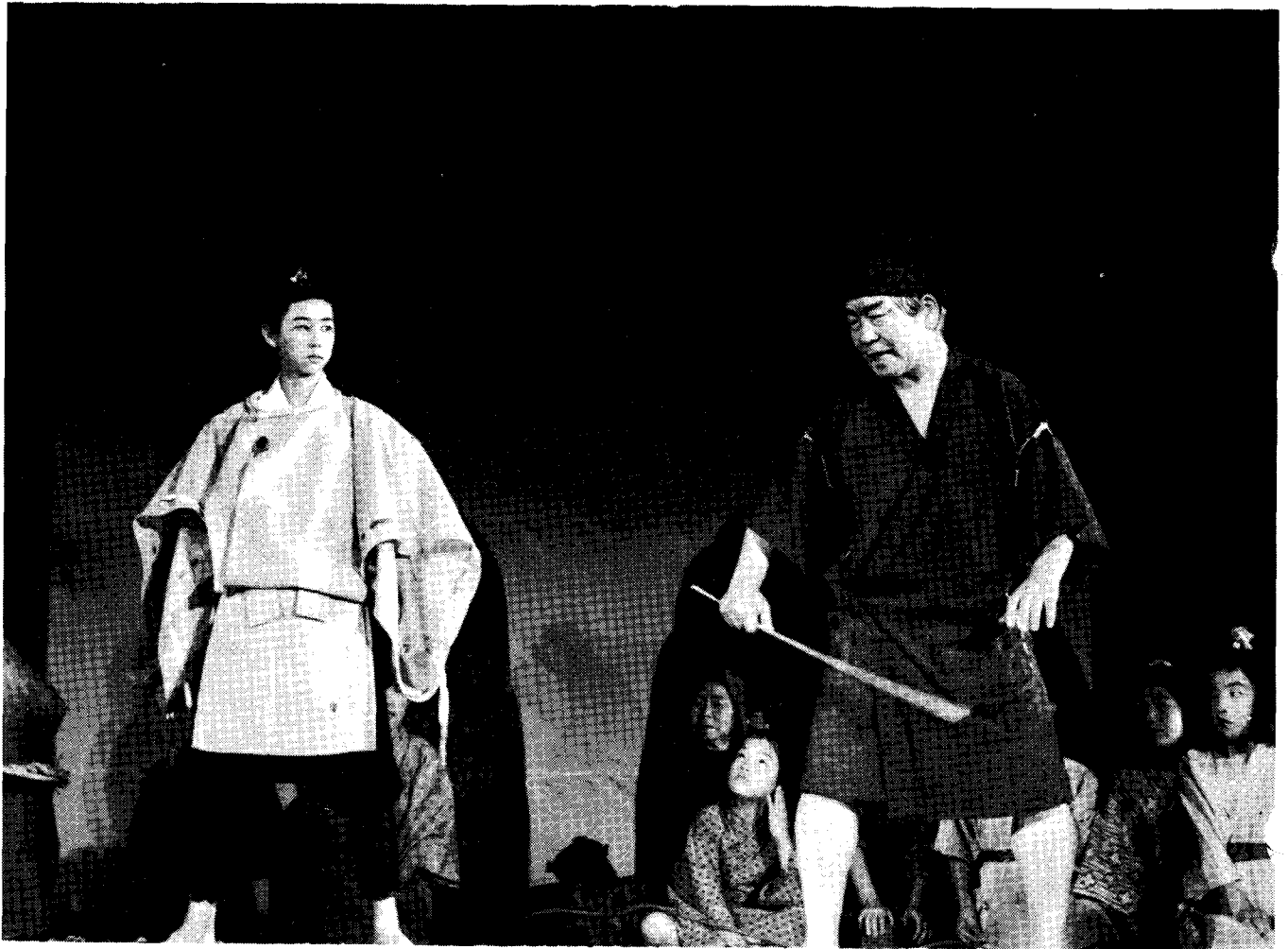


# 広報あか池 11

No.358

■発行/赤池町役場〒822-11福岡県田川郡赤池町大字赤池1146番地の1 ☎0947(28)2004 ■編集/総務課

★町の人口★10,316人(+79)男4,858人(+13)女5,458人(+66)世帯合計3,594(+64)平成4年9月30日現在( )は前年同月との比較です



## いよいよ、なりました...

'92 童謡まつり in 赤池がスタート

昨年に続く第2弾、町民ミュージカル  
「城田の山幸・響の海幸」いかがでしたか。

### 視点

上野の世良公男さんが上野焼の窯を開いた。自身の不幸を乗り越えて、本格的に焼物と取り組んだのが二年前。上野焼出身の陶芸家高鶴淳一さんの元で修行を積み、この程独立した。

陶芸の里にまた新しい息吹きが芽生えた▼上野焼は現在町内に二十八窯あり、匠の技を競っている。昭和四十年代六、七軒であった窯が、五十年代に急速に増え、今に至っている。最近また二、三の窯が増えそうな話を聞いていたが、世良さんの開窯はその走りであろうか。かつて上野焼の皆さんに窯元を五十軒に増やすよう提案したら、良い顔をされなかったが、ますます競争が激しくなるだろう。良い競争関係をつくるのが大切だ▼資本主義であれ、社会主義であれ、どんな社会であれ、良い意味での競争は必要だ。良いライバルを意識しているところに進歩がある。再建団体の赤池町も今、比較財政運営論を実践体験している。常に良きライバルを意識して行政にあたることを意味する▼先日遠洲七窯を回ってみた。志戸呂焼(静岡県)、膳所焼(滋賀県)、古曾部焼(大阪府)、朝日焼(京都府)、赤膚焼(奈良県)、と回ってみて、本当に上野焼も遠洲七窯の一つであることを実感できた。良いライバルでありたい。



童謡まつりin赤池の先陣をきって「わが町あかいけクリーン作戦」が赤池町地区公民館連合会（太田荒喜会長）の主催で行なわれました。町内から集まった空き缶は何とノ三万五千個、軽トラック四十台分の空き缶について少しかわってみました。

**なぜ空き缶を「ゴミ」にするのでしょうか**

自動車運転して、信号停止したときや、まちを歩いているとき、ふと脇に目をやると、必ず見かけるのが空き缶。そして、草むらに目をやると、ごみといっしょにぞろぞろ出てきます。

近頃は、ジュースやビールなど缶で売られています。以前はほとんどの缶が、びんで売られていました。このころは、空きびんは販売店で引き取ってもらい、びん代が返ってきていました。空びんは、リサイクルされ、ごみではなかったようです。

では、空き缶がなぜ捨てられるようになったのでしょうか。

数年前より、便利さを求める社会の流れから、ジュースやビールなどの容器も、飲むときや、飲み終わったあとの始末の手軽さから缶や紙パックに変わっていきまし。同時に「用がなくなればゴミ」という使い捨ての考え方が広がり空缶もゴミと見なされるようになったのではないのでしょうか。

**リサイクルは省エネにつながる**

使い捨てと省エネとが混在した現在、省エネに対する意識は一定程度ありますが、使い捨てを省エネに結びつける意識は、まだまだ薄いのが実態です。

省エネということばですぐ思い浮かぶのが、石油と電気です。特に石油は大切な資源でもあります。

子どもが中心になって活動すれば、素晴らしい内容になるのではないのでしょうか。

**よその町では「どんな」ことをやっているのか**

北野町では、空き缶ポイ捨てに罰金制度を導入し、規則の強化をはかっています。

前原市や芦屋町などでは、廃品回収している団体に助成金や補助金を交付しています。自分たちのまちは、自分たちできれいにしたいものです。



草原の中は空き缶だらけ

にもかかわらず、使い捨ての時代と呼ばれる現在、資源を食いつぶし、再利用できるものまで、わざわざ大切な石油を使って灰にしています。

使い捨てと省エネとは、お互いに相反するもの。省エネを唱えながら、一方では使い捨てを奨励する世の中の動きに大きな矛盾を感じ

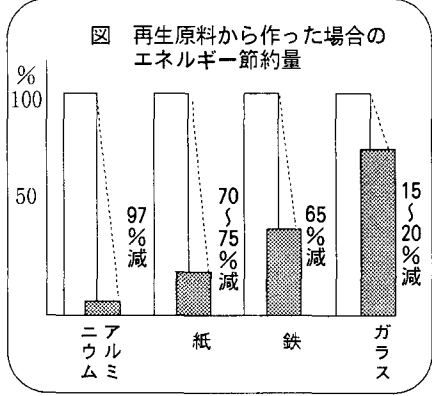


**エネルギーが節約できるんです**

再生できるものには、紙類、アルミやスチール缶、ガラスのびんなどがあります。

これからは、最初の原料から生産するよりも、リサイクルされた原料から生産するほうが、少ないエネルギーですみ、また、自然破壊も防げます。

例えば、アルミ缶一個では、40ワットの電球が約半日つきっぱなしになるだけの量のエネルギーが節約できます。



**空き缶がよみがえります**

回収された缶のうち、スチール缶はプレス機で圧縮され、製鉄工

**燃えるゴミの中に 空き缶などの不燃物が 入って困ります。**



●下田川4ヶ町 慶介センター場長 稲富保男さん

清掃センターには、下田川四ヶ町から毎日たくさんのごみが運ばれてきます。多いときは、1日の処理能力(40トン)を上回ることもあります。ごみの収集には、みなさんの協力で燃えるごみと、燃えないごみに分別して出してもらっています。燃えるごみの中には、まだ 空き缶や空きびんなどの不燃物が平均して7%も混ざっています。

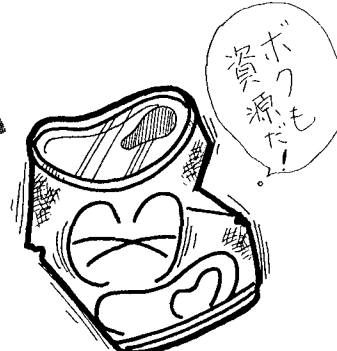
これらは、そのまま可燃物の灰といっしょに処分され、資源にならないばかりか、余分な埋め立てになっています。

また、アルミ缶などは、焼却炉で燃やしますと、ドロドロに溶けてストーカ(火格子)の中で固まり、炉や機械類をいため、トラブルの原因になっています。そのため毎週、炉内の点検をして、溶けたアルミなどを取り出しています。

みなさんの心づかいで資源になりますし、炉のいたみも少なくなります。

また、埋め立て地の延命や環境保全のためにも、燃えるごみの中にびんや缶などの不燃物を入れないようご協力をお願いします。

なお、不燃物として出されたゴミは、鉄、アルミ、ビンなどに分別され、昨年度だけでも1,000トン以上の量がリサイクル化されました。



焼却炉は空き缶の山